

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570812362		
法人名	医療法人 Carus		
事業所名	グループホーム桜木荘		
所在地	秋田県大仙市協和船岡字上宇津野249-1		
自己評価作成日	令和5年11月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルスが5類に移行されたがまだ以前のように戻らず外部との接触も控えているがしっかりと感染対策をしてできるだけ地域の行事等に参加し地域住民の方との交流をしている。また、入居者様個々の体調や生活リズムに配慮し一人ひとりと向き合い、関りを持ちながら安心して暮らせるように努めており、自分らしい生活を続けていく事ができるよう取り組んでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初から地域住民にはなにかと声をかけていただき、除雪その他の環境整備に協力していただき良好な関係が続いています。利用者との交流が制限されている中でも地域との関わりを大切なものとして捉え、年2回の地域向け広報の発行を続けています。家庭的な雰囲気大切に利用者笑顔を引き出し、日々の様子を担当職員が家族に伝え、利用者の安心と家族の信頼を得ています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働いている (参考項目:10)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を念頭に置き充実したサービスを提供できるよう日々実践している。	「真心」という理念を介護の基本とし、利用者を思いやる気持ちを忘れずに日々のサービスを提供しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類になったがまだ以前のようにまでは戻っていない中、感染対策を徹底し地域の行事に参加している。また、年2回地域向けの広報を発行し地域と交流している。	ホームと地域との繋がりは変わることなく続いています。利用者が地域の方々と同じように親しく交流できる催し等は未だ実施できずにおり、感染症の終息が待たれるところです。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	コロナ感染拡大防止の為、毎月行っていた認知症カフェも開催できていないが電話での認知症なんでも相談は継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回書面にて開催し助言、要望等意見を聞きながらサービスの向上に繋がるよう努めている。	会議は議題を決めて行っており、11月からは対面会議を再開しています。地域の方の参加も多く、熊の出没状況等が話題に上り、会議内容が運営に反映できるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え、不安な点や分からない事があればその都度介護保険事務所に相談し、協力関係を築いている。	必要に応じて相談しながら福祉事務所や包括等と連携し、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止及び虐待防止委員会を中心に内部研修やチェックリストを使用し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	チェックリストを使用して職員同士が日々の業務を振り返り、身体拘束、虐待のないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者を取り巻く環境を考え、権利擁護を利用する段階かどうか本人と家族そして関係者と話し合ったケースもある。今後も学ぶ機会をつくり活用できるよう務めていきたい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定時の際は利用者や家族等の不安や疑問を尋ね十分な説明を行い理解、納得を図っている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	運営推進会議は書面にて双方の意見交換を行っており家族には毎月広報を発行して活動の様子を知らせたり、電話にてこまめに連絡を取っている。	担当職員が毎月利用者の状況を報告しながら家族と連絡をとっています。家族との対話内容は職員間で共有しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月のケア会議や各委員会を通し職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映できるよう努めている。	勤務の変更希望、ユニット間の連携の仕方や日々の業務について等、状況に応じて出される職員の意見や提案が運営に反映されています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナやインフルエンザ感染拡大防止の為同業者との交流の機会を最小限とし、電話やメール等でお互いに情報交換をしながらサービスに繋げ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人の悩み、困りごと、不安に感じている事、要望等に耳を傾け本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族が困っている事、不安、要望に耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事や役割を見つけ共に学び、支え合いながら暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人そして家族の思いを受け止め家族の絆を大切にしながら本人を共に支え合う関係を築けるよう努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	コロナ感染者減少時は感染対策をした上で家族と面会できていた。再び増加した為面会等を自粛しているが家族との手紙、電話等で関係が途切れないよう工夫しながら支援に努めていきたい。	利用者の日常の様子がわかる写真を家族に送付し、関係が途切れない工夫をしています。ホームの催しで懐かしい知人と会うこともできるので再開が待たれます。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、お互いに助け合い、支え合えるような場面を作ったり職員が介入することで良い関係性が保てるよう努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じて相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で一人ひとりの思いや意向に耳を傾け、尊重しながらその人らしく生活が送れるよう支援に努めている。	普段の様子や何気ない会話から利用者の思いを汲み取り、気づいたことを日々のケアに取り入れながら、その人に合った暮らし方を検討しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の会話や興味のある事、家族からの情報をもとに生活歴や生活リズムを把握しこれまでの生活を継続できるよう支援に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	本人や家族、職員間で話し合い、課題を見つけ意見やアイデアを出し合い本人のより良い暮らしの為に現状に合った介護計画を作成している。	定期的にモニタリングし、家族の意向、職員の意見を参考にして介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはケアプランに沿ったサービスの結果や気づき、日常の様子等を記入し職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響がまだあり外出もあまり出来ないが春には桜の名所をドライブし楽しむことが出来たのでこれからも出来るだけ支援していきたい。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関への受診や、本人の状態に応じて適切な医療が受けられるよう主治医の指示を仰ぎながら協力医療機関と連携を図っている。	訪問診療、緊急時の対応が可能なことから、入居時に了解を得て協力医に変更した方もいます。歯科治療の必要がある場合には協力歯科医に依頼することになっています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回正看護師の訪問があり日常の健康状態を報告している。変化があった時はその都度報告し適切な受診が受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人と家族が安心して治療できるよう病院関係者との情報交換や相談を重ねできるだけ早期に退院できるよう努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては事業所側としてどこまで支援できるかを十分に説明し家族、医療関係者と連携しながら悔いのないケアを提供できるよう支援している。	終末期の指針に則り、支援しています。状態の変化に応じて医師が家族に説明し、家族の意向に添って対応しています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、速やかに対応できるようマニュアルの確認や見直しを行っている。また委員会を中心に内部研修を行い実践に活かせるよう努めている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回様々な想定での避難訓練を行っており安全に避難出来るよう職員で意見を出しあって入る。地域との協力体制も築いている。	毎月ホームの環境をチェックする日を決めて避難経路等を確認しており、非常口スロープの劣化箇所を安全に通行できるよう補修しています。また、通報装置の連絡先に自治会長も登録しています。	地域の方が多く参加している運営推進会議を活用し、協力してくれる方の役割、一時避難場所を決め、夜間帯及び季節、天候に応じて安全に避難するための訓練の実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し本人らしく過ごしていけるようその方に合わせた言葉かけや対応を心掛けている。	年長者に対して尊敬の念を持って接することを心がけています。また、声のかけ方にも注意しており、職員間で言葉遣いを確認しながら対応しています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服が選べる方には本人が着たい洋服を選んでもらい毎日気持ちよく過ごしてもらうよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事会には旬の食材を使用し食事を楽しむような機会を作っている。また、お盆拭きなどをしてもらっている。	山菜の処理や盛り付け等を手伝っていただき、利用者の残存能力を引き出して力が活かせるよう支援しています。テラスを利用したり、敬老会や芋煮会でいつもとは違う食事場面を楽しんでいただきたいと思います。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	色々な食材を用いて栄養バランスが整うようメニューを工夫している。摂取量が少ない人には野菜ジュースを提供するなどしている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの促しや介助を行い、夜間はポリデントで義歯消毒をし清潔保持に努めている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行うことによってトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	チェック表で確認し、適切に誘導してトイレで排泄することを基本に支援しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動やテレビ体操など軽体操を行い便秘予防に努めている。また、毎朝ヨーグルトを提供したり個々に合わせ牛乳を提供するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりのその日の健康状態や希望に合わせて気持ち良く入浴ができるように支援している。	週2回入浴支援が行われ、車椅子の方にはシャワーで対応しています。強く拒否する方もなく、声かけを工夫する等してスムーズな入浴に繋げています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活習慣合わせ、その時の気持ちに寄り添いながら安心して眠れるように支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方内容と薬を照らし合わせ用量を把握し理解に努めている。症状に変化や気になる点がある際は主治医、看護師に相談し指示をもらっている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボール遊びや歌など職員が介入する事で気分転換し楽しんでいる。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染拡大防止の為中々外出支援が出来ないが本人の希望で苑周辺の散歩をしたりし支援している。	テラスでお茶をいただいたり、敷地内を散歩したり、また、ドライブに出かけて車窓からの花見を楽しむ等、ホームに閉じこもらない支援が行われています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	中々お金を使う機会がないが希望に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように棟内の装飾をその月に合った物を飾ったり、湿度や棟内、居室の温度を調整し居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁の飾り物は季節に合わせて皆と一緒に作り、この時季はクリスマスに因んだ作品が飾られています。広い廊下の何れか所にソファを置いて利用者が適宜利用できるようにしています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き誰でも座れるようようにしている、また独りでくつろげる場所もあり思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との思い出の写真を飾ったり、本人が家で飾っていた人形を置いたり本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物や遺影を持ち込み、本人が安心して過ごすことができるよう配慮しています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すりや滑り止めマットを敷くなどして安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫をしている。		